

おひさま通信

「ねがい」をつなぐ  
職場実習

白岡太陽の家にじ

「休みがち」なレイコさんが大変身!

レイコさんはみぬまのグループホームで暮らす仲間で、4年前からにじに通い始めました。

通所前、にじ見学で経験のある洋菓子作りに関心を示していたため、通所開始から製造班に所属しました。手先が器用なので、期待に応えようと頭痛薬を服用しながら頑張っていました。でも、しだいに笑顔が減り、「頭が痛い」と休むようになってきました。

様子を心配したホームとにじの職員は、支援センターや関係者などと相談し「にじに通所すること」を目標にしました。そして、にじは通所後の取り組みを振り返り、今まで「洋菓子作り」にレイコさんを合わせようとしていたのではないかと、今後は「レイコさんが選ぶこと」を大事に取り

組むことにしました。

その後、自分で活動を選び、高齢の活動に参加し活動の手伝いをしたり、洋菓子の注文が多く納品が近いと、自分からすすんで洋菓子作りに入るようになり、通所も安定してきました。

こうした中で、頭痛で休んだ次の日のこと、「今日も休むと思ったでしょう」と言ってきました。職員は「いえ、信じているから」とレイコさんをハグしました。すると何度も「ほんと」と、笑顔で聞き返してきました。この出来事から、職員に自分から話しかけてくるようになり、会話が増えてきました。

しばらくして、支援センターからレイコさんに短期間の就労移行事業所実習の話があり、実習を行いました。実習後に感想を聞くと、なんとなく覇気がない様子。しかし就労移行には前向きだったので「どんな仕事かしたいの?」などと話しをむけると、「困っている人のお手伝いがしたい」「にじの職員のような仕事がしたい」と言ってきました。これがレイコさんの「ねがい」です。

「ねがい」を知った職員は「ねがい」に向けた取り組みを考え支援したいと思いい、にじでの職場実習を考えました。

調整したのです。

一見何気ない光景ですが、レイコさんは「早く」「やらないで」「まだ」などの言葉は使わず、仲間の行動を静かに見守り、行動を制するのではなく、そっと気持ちを違う方に向け、皆が楽しく仕事ができるようにしていました。今まで積み重ねてきた経験と本来持っている力が発揮される場面でした。すごいですね。その後、さらに積極的に仲間と関わり、様々な場面で自分らしい仲間との関わりを築いています。

深化するベッドメイキング

どんどん変わっていくレイコさん。コミュニケーションに不安があるのでも、にじにはない支援員業務を体験させたいと職員は思い、大地での業務体験を提案しました。初めての場



レイコさんが仲間をサポート!

ある日、洋菓子作りの仕事で朝から気持ちが不安定なレイコさん。自分のモヤモヤする気持ちを吐き出したくて、他の仲間と理由をつけて「マリアさんと一緒に仕事したくない!!」「もうヤダ!!」と凄じ剣幕で怒りだし、気持ちが落ち着きません。職員の言葉がけも一切聞こうとしません。落ち着かせようとすればするほど心を閉ざしてしまいます。

職員は、そのまま様子を見ることにしていたところ、ロッカーを叩いているレイコさんのそばにレイコさんが行き、そっと肩に手をかけました。レイコさんはレイコさんの方を向き、そのまま会話することなくレイコさんを抱擁しました。落ち着いてきたところを見計らって、レイコさんをだれ



所に抵抗があるので難しいのではないかと考えていましたが、なんと「自信ないけどやってみる」と前向きな返答をし、職員はビックリ。

こうして、6月から大地でベッドメイキング体験がスタートしました。週2回ペースの体験は、仲間のシート交換、寝床の整頓です。初めは職員も同行しました。慣れない場所です緊張し、大地の職員の質問に声を出さずに頷くだけでした。その後、一人で大地へ通勤し一人で仕事をするまでになりました。

レイコさんの様子について、「シート交換、寝床の整頓をしながら、仲間の様子を知り、職員からの情報を元に自分で考えて作業をしている」「シート交換の際に移動したクッションを戻すのに、体位交換に必要な仲間は元の位置に戻し、他の仲間のクッションは端におく」と大地の職員から聞きました。

基本的にシート交換後は、寝床を元通りにすることになっています。しかし体位交換時にクッションが必要な仲間には、職員が取りやすい場所に置くことにしているとのこと。レイコさんから「職員が仕事をスムーズに出来るように考えたんだ」と聞きました。

大地での仕事ぶりは、「ベッドメイクの職員研修の見本にしたい」と評

もない所に誘い、話を聞いていました。しばらくすると、穏やかな顔をして仕事着に着替えたレイコさんが現れました。

後でレイコさんに話を聞くと、「レイコさんが大きな声を出し、ロッカーを叩いていたので、話を聞いてあげるとスッキリするかな?」と思い、他の仲間に影響しないように場所を変えた」と教えてくれました。そして、仕事に取りかかれるように促したとのことでした。

落ち着きを取り戻したレイコさん。今度は、仲間たちがいる部屋に入りたくそうにしています。それを感ぜたレイコさんは、仲間の中に入れてもらうようにと、班の仲間「レイコさん着替えられたよ」「仕事頑張るって言ってたよ」と言いました。洋菓子作りの仲間たちも「お帰り!」「もう戻ってたよ!」などと声を掛け、場が和み、レイコさんはすんなり仕事に取りかかることができました。

仲間関係を調整するレイコさん

自信が持てるようになってきたレイコさん。職員は「仲間とレイコさんだけで仕事をするのもいいかも!」と思い、早速、そうした仕事の場面を設定してみました。おしゃべりが大好きなレイコさん。その声に反応しイライラするレイコさ

価が高く、「今日、大地でほめられた」と嬉しそうに報告してくれています。

「ねがい」に向けた新たな取り組み

職場実習を初めてまだ6ヶ月。毎日8時30分までに欠勤することなく自転車出勤しています。

レイコさんは、にじと大地の実習体験で、いままで秘めていた力を発揮し仲間を支えてくれています。職員に相談しながらも自分で考え判断し、その仲間が必要としている「支え」を仲間に合わせて取り組み、その姿に職員は大いに感動しました。

レイコさんには、「ねがい」の続きがあります。それは、「働いて、ひとり暮らしがしたい」ことです。

いまの職場実習は9月で終了しますが、働き、ひとりで暮らすには、まだまだ多くの課題があります。9月末の実習の振り返りで、ひとり暮らしに必要な生活費のことなどを学習しに必要な生活費のことなどを学習し「ホームと協力しながら」「ひとり暮らしの体験」や、支援センター等と連携した就労に向けた取り組みも検討していきたいと考えています。

これからも「仲間を信じ、仲間の意見を尊重し、一緒に歩むこと」を心がけ、レイコさんの『ねがいの実現』をめざして、取り組んでいきたいと考えています。

白岡太陽の家にじ職員 田邊 和実